

はじめに

奈良市三条大路1丁目の奈良警察署跡地において、発掘調査を実施しています。この場所は、平城京左京三条二坊十四坪にあたります。昨年度に実施した試掘調査の結果、奈良時代の遺構が残っていることが確認され、平成27年(2015)5月26日から約8,000㎡の範囲を対象に発掘調査を行っています。

調査の内容

検出した遺構

基本層序は、第1層 奈良警察署建設造成土、第2層 近現代の耕作土層、第3～6層 中近世の耕作土層であり、現地表下約1.8～2.0mの第7層 整地土層および第8層 基盤層上面に、奈良時代の遺構が残っていることを確認しました。

昭和44年(1969)に設置された奈良警察署の基礎工事と江戸時代から存在していた農業用溜池の影響で、第7・8層の遺構面がすでに失われた部分もありましたが、溜池の底にあたる調査区南東部を除く範囲で数多くの奈良時代の遺構を検出することができました。

現時点までに確認した掘立柱建物は37棟以上を数えます。主要な建物の概要は、次のとおりです。

- ① 南北柵1～3の東側の区画では、建物1(東西7間以上×南北3間)・建物2(東西2間×南北3間)・建物3(東西3間×南北10間)などが検出されました。
- ② 南北柵1～3の西側の区画では、建物4(東西2間×南北6間、東面庇)・建物5(東西2間以上×南北3間)・建物6(東西2間×南北4間以上)などが検出されました。
- ③ 敷地の西端では、小規模な建物が南北方向に並んで何度も建て替えられ、多数建ち並ぶ様子を検出しています。その中には総柱そうちゅうの建物もあり、倉庫の可能性もあります。

現時点までに検出した井戸は10基、土坑は6基以上にのぼります。主要な井戸・土坑の概要は、次のとおりです。

- ① 井戸6は、横板を平面六角形に組んだもので、平城京内では左京三条一坊一坪で検出された例につづいて2例目となります。
- ② 井戸3は、十四坪のほぼ中央に位置しており、横板を平面四角形に組んだもので、井戸枠の一边が1.2mと今回の調査では最大のもので、内部からは、多数の土器とともに軒丸瓦、曲物などの木製品、斎串などの木製祭祀具などが出土しました。
- ③ 調査区北西部の大型土坑3からは、三彩瓦片38点さんさいが出土しました。

遺構の変遷とその特徴

佐保川の氾濫による洪水砂や洪水に起因すると考えられる整地土をはさみ、上下2時期の奈良時代の遺構面を確認しました。上下2面とも遺構の重複関係があったため、少なくとも5時期以上の土地利用の変遷があったものと判断されます。

十四坪の東側約三分の一を南北に仕切る柵(柵1～3)を検出しましたが、これは前後2～3時期の建て替えがあったと考えられます。いずれも坪内全体を南端から北端まで貫通したのではなく、中央付近で途切れていました。このことからこれらの柵は、十四坪を細かい宅地に分割することを意図したものではなく、一坪全体を占めた宅地の中を区画するための施設だったと推定されます。建物1は、この東側区画の中心的な建物だったと考えられます。

まとめ

今回の発掘調査では、数多くの建物跡や井戸など奈良時代にこの場所が宅地として利用されていたことを示す遺構を確認できました。建物の詳細な時期の確定は精査中ですが、奈良時代後半に十四坪全体が宅地として利用された時期があったものと考えられます。

平城京左京三条二坊十四坪 現地説明会資料
2015年12月20日

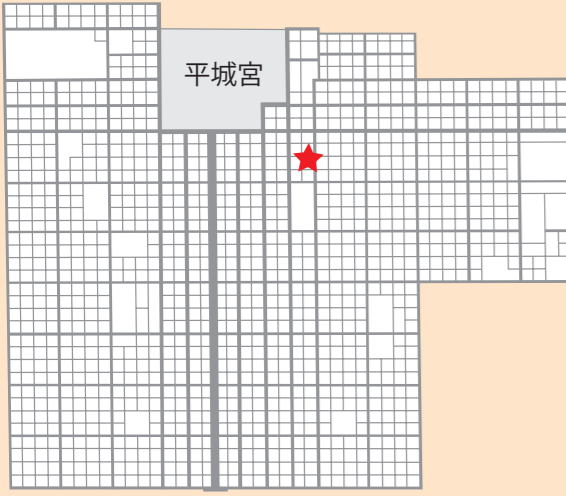
奈良県立橿原考古学研究所
〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地
Tel: 0744-24-1101
URL: <http://www.kashikoken.jp/>
(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます。)



平城京左京三条二坊十四坪 現地説明会資料



2015年12月20日
奈良県立橿原考古学研究所



平城宮

平城京左京三条二坊十四坪の位置
(★印のところ)



建物4 (東から)



三彩瓦



西端部の建物群 (北東から)



A期 (奈良時代整地以前) C期 (奈良時代整地以後) E期 (奈良時代整地以後)
 B期 (奈良時代整地以前) D期 (奈良時代整地以後)

調査地の全景 (上が北)

※遺構の時期区分については、今後の調査の結果、変更する場合があります。



井戸6 (西から)



井戸6 井戸枠 (北西から)



建物3 (南から)



建物1 (西から)



井戸3 (北から)



井戸3 遺物の出土状況 (南から)



柵3 (南から)



井戸1 (南から)